「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

発達段階に応じて、授業の振り返りを生かしながら自主的に家庭学習に向かう児童・生徒の育成

桑折町推進地域

学校での学習内容を定着させるために家庭学習の実践は必須の要件である。小学校1年から中学校3年までのつなぎを考え、宿題から自主学習へと「自己マネジメント力」を高めていきたいと考えた。町の「家庭学習習慣の確立」を基に、各学校では家庭学習の手引き等を作成し、学習習慣の定着を図ってきた。

取組のねらい

1　自らの家庭生活を見つめ直し、自主的に家庭学習に取り組む姿勢を育成する。

家庭に帰ってからの限りある時間を有効かつ計画的に使うために、児童生徒自らの家庭での過ごし方を振り返り、家庭学習の時間と就寝時間を優先的に確保させる。また、これまで実践してきた家庭学習の内容を振り返り、より楽しく満足できる内容を課題として選定させる。

2　家庭学習の課題を授業と関連させ、思考の連続を図るとともにより考えを深める。

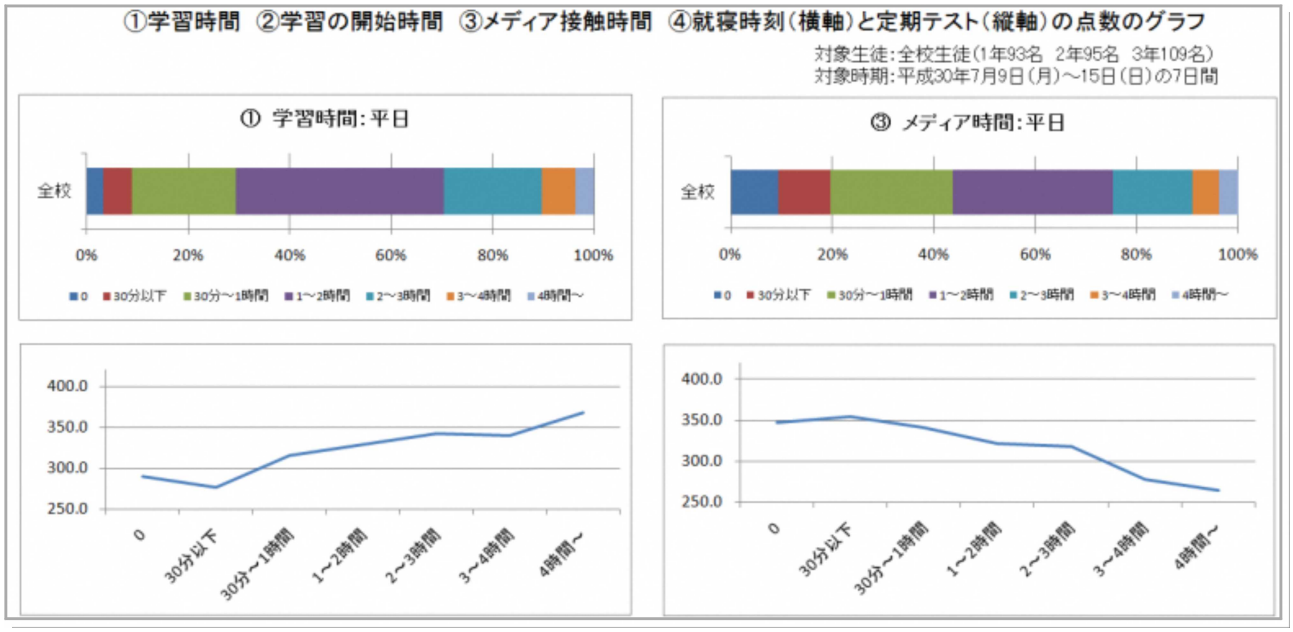
授業の振り返りで得られた新たな疑問を家庭学習の課題として設定することで、より興味をもって取り組める。また、自分のペースで十分な時間を費やせることで、学習することの楽しさを感じながら主体的に考えを深めることができる。

取組の内容

1　生活習慣・家庭学習習慣の実態調査と改善の取組（中学校）

自己マネジメント力の育成のため、今年度は、特にＲ－ＰＤＣＡのサイクルのＲの段階を全校体制で取り組んだ。実態を知るために、今年度から「生活ノート」に、日頃から家庭学習の時間と家庭でのメディア接触時間を記録させた。７月の調査により家庭学習時間、メディア接触時間と定期テストの結果の相関関係が明らかになった。この結果を教師だけが共有するのではなく、生徒会活動やＰＴＡ活動に広げ、問題意識を生徒自身のものにさせたいと考えた。

全校生徒個々への具体的な取組については今年度は実施できなかったが、生徒会本部役員の生徒でこの結果をもとに話し合い、家庭学習時間やメディア接触時間の改善について、自分たちができることについて意見を交わした。来年度の活動に向けて、委員会活動や学級活動で話合いができるように準備を進めている。



また、県の家庭学習・生活チェックシートを参考にして作成した「町の家庭学習・生活アンケート」を実施し、家庭での生活習慣を振り返ることができた。保護者に学年便り等で集計結果を伝えたり、懇談会等で説明したりして、家庭での子どもたちへの言葉かけについて話題とした。

2　発達段階に応じた学習の定着を図る「家庭学習の手引き」等の作成・配付

手引きの名称は様々ではあるが、家庭学習のしかたや課題の例などを示すことで、進んで課題を見つけ、解決する自主学習に向かうように指導している。授業で学習した内容を確認するだけではなく、さ

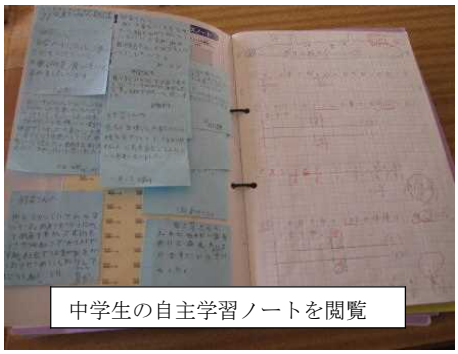
らに調べたり、課題に対する自分の考えを書いたりする活用型の学習を意識させていきたい。
　特に、中学校では１年生に対し、「学びの手引き」を配付し、学習の心構えや授業の受け方、家庭学習の進め方、テスト勉強の進め方などの説明を実施している。

３　自主学習ノートの取組

(1)　よりよい自主学習ノートをめざした回覧や展示（小学校）

①　「自主学習ノート回覧週間」の設定

　自分の学年の下の学年（2年生→１年生）に回覧し、付箋などに感想等を記入してもらった。６年生は中学生のノートを借用し、中学生の学習内容に触れることができた。中学校からも「小学校でも自習学習ノートを使って、家庭学習をしていることを知り、中学生らしい内容の濃いものになるように意欲を高め取り組む姿勢が見られた」という感想もあった。

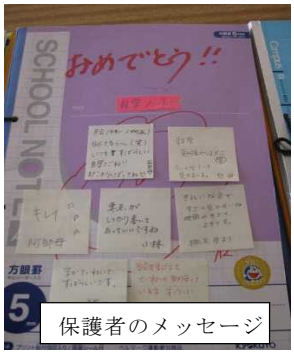

中学生の自主学習ノートを閲覧

②　模範となる自主学習ノートの掲示

　教室の後ろなどに自学ノートのコピーを掲示したり、やり終えたノートを展示したりして、学級内でよいところ等を見合い、次に学習する内容の参考にしていた。

自主学習啓発のための掲示

自主学習ノートの展示



保護者のメッセージ

③　授業参観・懇談会の時に自主学習ノートを展示し、保護者からのメッセージを求める

　個別懇談会の際、前学年の自主学習ノートを展示し、保護者から付箋に励ましの一言を記入していただいた。保護者は自分の子どもだけでなく、他の子どものノートも見て、メッセージを書いていた。メッセージをもらったことで、さらに意欲をもって取り組んでいた。

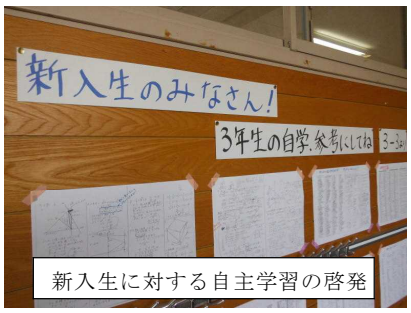
(2)　「生活ノート」と「自主学習ノート」の取組（中学校）

①　自習学習ノートを利用した担任からの支援

　家庭学習を習慣化するために、各教科の宿題の他に学年の実態に合わせて「生活ノート」（毎日の家庭での過ごし方の様子を振り返る）「自主学習ノート」に取り組んでいる。提出、確認、返却という一般的な方法であるが、担任が生徒一人一人のノートの確認を継続して取り組む意義はとても大きい。授業では教師一人と生徒数十名の関係であるが、「生活ノート」「自主学習ノート」では教師一人と生徒一人の関係である。家庭学習の頑張りを見てもらっているという安心感や満足感、達成感が生徒の心の中に生まれている。やらせるだけでなく、その取組を最後まで見届けることが大切であり、全校生で同じことに取り組んでいるという一体感が学習に取り組む基盤にもなっている。

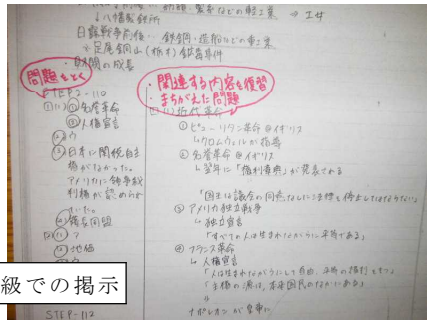
②　内容の優れた自主学習ノートの学年、学級での掲示

　自習学習ノートの取組内容は各生徒それぞれに任せており、漢字や英単語の書き取り練習や各教科ワークの問題演習、授業のノートの再確認などいろいろである。この中で特に優れた内容のものを学年の廊下や学級掲示をすることで、家庭学習に対する意識を高めることができた。他人がどのような内容で取り組んでいるかは普段は分からず、同じ学習内容の繰り返しになることが多い。学習意欲を刺激するためにも、優れた取組を紹介することは効果的であった。



新入生に対する自主学習の啓発

学年・学級での掲示



③　補助教材の計画的取組

　本校では２年生後期から補助教材を利用して、自主学習ノートとは別に家庭学習の課題を課している。学年の学習担当教師が５教科のバランスを考えて、課題となる内容を学年だよりな

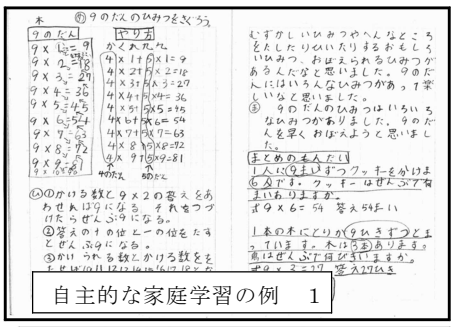
どで知らせ、毎日取り組ませている。

実践して見えてきたこと

1　家庭学習における自主性の芽生え（小学校）

(1)　授業をもとに、自分で発見したことをまとめる姿

２年生の子どもは、「９のだんのひみつをさぐろう」という課題意識をもち、和の十の位と一の位をたすと９になるという発見をノートにまとめることができた。また、振り返りでは、「９のだんにはいろんなひみつがあって楽しい」と書き、９のだんを使った文章題の問題も作って解いている。楽しさを感じることで、自ら学びを広げていった。



自主的な家庭学習の例　1

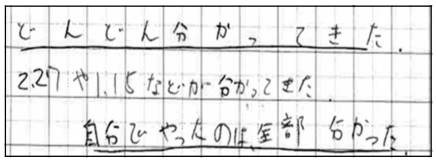
(2)　新聞記事から自分の興味・関心を広げる姿

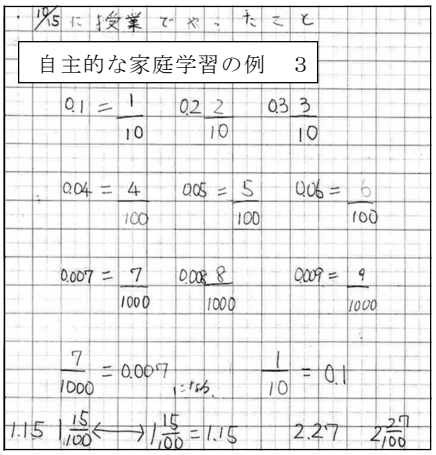
６年生の子どもは新聞記事をもとに、自分の考えを書いた。相馬のサケ漁が始まる記事で、「水温が高い」ことを読み取り、地球温暖化の問題とつなげている。文章の内容を理解しその内容を他の事象と関係付けて、興味・関心を広げるきっかけを作った。

自主的な家庭学習の例　2

(3)　授業を振り返り、教科書を自分で解釈し、まとめ直す姿

５年生の子どもは、分数と小数の関係で、どうして0.2=2/10になるのかが授業の中で理解できなかった。その後この子どもは、自主的に教科書を見ながら、「0.1は1/10」だから「0.2は2/10」と自分の言葉でつなぎ、ノートにまとめていった。そして、自分で問題を作り、「1.15=　1と15/100」とまで導き出すことができた。振り返りでは、「どんどんわかってきた」と感想も述べている。その後の授業において、類似の練習問題でも正答することができ、自信をもつことができた。





自主的な家庭学習の例　3

いずれも子どもが主体的に取り組むことで、学習意欲が促され、深い学びにつながっていく可能性を示した例だった。今後は、これらの成果をもとに、さらに授業と家庭学習をつないでいく意識（自己マネジメント力）を子どもたちがもてるようにしていきたい。

2　課題を客観化し、自分のこととして捉えさせる（中学校）

家庭生活のメディア接触時間が増えることで家庭での生活習慣が乱れ、家庭学習時間の確保が難しくなる。また、家庭学習時間とテストの点数の相関関係が明らかになった。そのデータをもとに生徒会の本部役員で話し合ったが、自分の課題として捉え、それを改善していこうとする意欲向上につながらない様子があった。家庭学習時間の重要性とゲーム、テレビといったメディア時間とのバランスを考えながら、今後、メディア（ゲーム、テレビ）などの接触時間を自らが設定し、生活習慣の改善を通して家庭学習の確保や取組の質的改善を目指すことで自己マネジメント力の育成を図らせたい。

3　家庭学習の個人差と個別的支援（R-PDCAサイクルのDの段階の個人差）

学校の取組として、R（自分を知る）、P（計画する）の段階については、学年や学級単位で支援することが十分に可能である。しかし、D(自ら学習する)の段階については、行動の有無やその内容に大きな個人差がある。家庭学習の行動を起こせない、家庭学習をやらされている感があるような児童生徒にとっては、その後の C（確かめる）、A（見なおす）の段階は意欲的に取り組めなくなってしまう。いかに D の段階に意欲や向上心をもって取り組ませるかが今後の課題である。

また、中学校の場合、小学校に比べると家庭における学習支援が減る実態で、本人任せになる現状がある。家庭においても、どのように支援すべきなのかを悩む様子がうかがえる。家庭に協力してもらうことを、発達の段階に応じて設定し、学校と家庭の共通理解のもとで家庭学習の充実を図りたい。